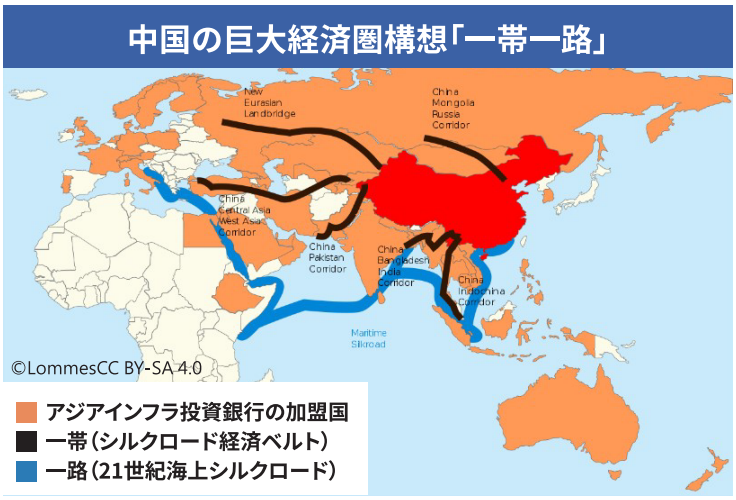
2020年4月　東京オープンハイナイト祈祷課題

1. 新型コロナウイルス流行に立ち向かうイスラエルを覚えて



イスラエルは、アジア諸国からの入国拒否を2月から行い、いち早く厳しい水際対策を断行しました。しかし、感染者が爆発的に増加したイタリアからの帰国者から感染が始まりました。イタリアを始めとするヨーロッパ諸国は、中国の巨大経済圏構想「一帯一路」に参加し、中国との関係が深まる中、民間レベルでも人の行き来が拡大していました。コロナウイルス流入は、時間の問題だったという見方もあります。

イスラエル政府は、感染経路を徹底的に洗い出し、濃厚接触者と見なされる人々を次々と自宅隔離させました。人との距離は2m間隔、学校、観光施設、シナゴーグも閉鎖。食料などの生活必需品の買い物以外は100mを超える外出も禁止。公共交通機関は25%まで減らし、すべての国からの入国を拒否して、鎖国状態となりました。

防護服を着用した救急部隊

一方、「ドライブスルー方式」検査の導入や、10万人分の検査キットを外国から入手、重篤な患者のための地下施設を開設しました。厳格な隔離措置や医療体制を打ち出していますが、4月2日現在、感染者は6200人を超え、死者31人となり、感染拡大中です。

経済的損失は莫大（ばくだい）で、4月1日、失業率は24%を超え、失業者は100万人を突破して、統計開始以降最悪の事態となりました。

このような中、政治は大きく動いています。3度目となった3月の総選挙で、ネタニヤフ首相率いるリクード党が多数席を取り、連立の駆け引きが続いていました。しかしコロナウイルス

の混乱の中、激しく対立してきた「青と白」党の党首ガンツ氏がネタニヤフ首相と手を組んで、統一連立政権を立ち上げ、ネタニヤフ首相は2021年9月まで首相を務め、その後ガンツ氏が首相を引き継ぐことで合意したのです。

イスラエルは、常にテロ組織やイスラム諸国と国家生存をかけた戦いをしてきました。しかし、コロナウイルスは、敵対勢力がどんなに望んでもできなかった事態を起こしています。それは、都市機能と市民生活のまひです。建国以来最大の国難と言えます。イスラエルの民が主により頼んで、この苦難を乗り越えられるよう、祈りましょう。

それはヤコブには苦難の時。だが、彼はそこから救われる。（エレミヤ30:7）

1. イスラエルと世界各地での感染拡大がくい止められるように。既に感染した方々の速やかな回復と医療従事者が守られるように。

2. 今後予想される莫大な失業や倒産、経済的損失のために、人々の生活と心が守られるように。国の指導者たちに知恵が与えられるように。

3. 建国以来の緊急事態の中にあって、国の指導者たちにきよい心が与えられ、神をおそれて知恵とあわれみを求めることができるように。

2. 感染症が拡大する中での教会の使命を覚えて

神のつくられた世界は、本来つながりをもってつくられ、命は結び付きから生まれているものでした。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大は、国家間も人同士も分断させてしまいました。しかしこの命を守るための隔離により、経済不況が起こり、自殺などで命が奪われる危険さえあります。ウイルスとの戦いは霊的な戦いでもあります。

共に集まり礼拝することが重要な教会にとって、集会の自粛は苦渋の決断です。感染症を極度に恐れて委縮してしまうと、敵のわなにも陥りかねません。しかし現実的に、各地で外出自粛要請の警笛が鳴らされる中、ネット礼拝への移行や礼拝の中止を余儀なくされる教会が多数あります。オンラインでの交わりや家庭礼拝を通して、クリスチャンの交わりと宣教が進められていくよう願ってやみません。実際にコロナウイルス拡大の脅威の中で、主を信じたいという人々が起こされているニュースも入ってきています。

世の中が恐怖に襲われる中、世界各地のクリスチャンの愛の行動は地域に大きなインパクトを与えています。中国の武漢市では、弾圧されてきたクリスチャンたちが立ち上がり、世界中

の兄弟姉妹から贈られた防護服を身に着け、路傍伝道を開始。支援物資と共にトラクトを配り、彼らを迫害してきた人々からも深い尊敬を受けていると報じられています。

各教会の置かれている状況はさまざまです。主が教会に知恵を与え、町の光として用いられるように、聖徒の叫びに答えて、暗闇の中で働いてくださる主に期待し、篤い祈りを捧げてまいりましょう。

闇の中に住んでいた民は 大きな光を見る。死の陰の地に住んでいた者たちの上に 光が昇る。（マタイ4:16）

1. 集まることのできない時をも用いて、クリスチャンが祈りとみことばに専心し、強められるように。家庭礼拝やネット礼拝を通して、礼拝の心が引き上げられ、隔離生活における霊的な戦い勝利できるように。

2. 恐れに支配されている人々に教会が慰めや励まし、実際の助けを与えていけるように。

3. この困難な時代にあって、多くの人々が、福音に耳を傾けて、救いが起こされるように。

3. 厳戒態勢の中で活動するBFPイスラエルの働きを覚えて

外出制限の中で、BFPも多くのスタッフが在宅勤務となりました。しかし、BFPは活動を継続しています。フードバンクも閉めていますが、里親プログラムの方々には、事前に2カ月分の食料や買い物券をお渡しできました。そして現在も食料配布は継続されています。フードバンクのあるエルサレム市とカーミエル市から特別許可が出たからです。たとえ店が開いていても、高齢者の方々は食べ物を買いに出掛けられません。そのような方々に食料をお届けしています。

食料配布するBFPスタッフ

この状況下で「助けてほしい」という電話が鳴りやみません。多くの新移民たちが仕事を失いました。彼らはイスラエルに来たばかりで言葉も不自由で貯金もわずかです。そして、かつて里親プログラムの支援を受けていた人たちからも、また支援してほしいと連絡があります。そんな中、ブネイ・メナシェというインド系の新移民たちからも窮状が寄せられて、現地スタッフが物資と共にコミュニティーを訪問しました。

ブネイ・メネシュの方々の支援現場にて 辻本彩咲実(あさみ)さん

辻本彩咲実(あさみ)さんからの報告です。

「今日は、150世帯分の食料と過ぎ越し用のパンとブドウジュースをブネイ・メナシェのご家族と一緒にパッキングしました。ご主人はこのように話してくれました。『私たちは今日の出来事を決して忘れません。私も先祖もユダヤ人としてのアイデンティティーを決して、失うことはありませんでした。20年前私が一人で帰還した時、私だけではなく先祖も一緒に帰還したのです。そして、今、先祖がずっと帰還したかったイスラエルに暮らし、子どもたちもここで生まれ育っています。何という恵みでしょうか。イスラエルに帰ってきた時、BFPに助けられました。そしてまたこの困難な時に支援していただいています。実質的、経済的な支援も大きいですが、何より私たちは一人じゃない！孤独ではない！と感じることができました。これが一番大きいです。あなたたちも大変な時に一緒にいてくれてありがとう』と目に涙をためて感謝を伝えてくださいました」

B.F.P. はイスラエルが困難な時こそ、神の民に仕えるために召されています。時が良くても悪くてもイスラエルと共に立ち続け、使命を全うすることができるようお祈りをお願いいたします。

幸いなことよ 弱っている者に心を配る人は。わざわいの日に 主はその人を助け出される。
（詩篇41:1）

1. 孤立している老人や貧しい方々など、コロナウイルスの影響で、苦しんでいる方々の一人でも多くの方に、クリスチャンからの愛の証しとしての支援を届けられるように。そのための必要が満たされるように。

2. BFPスタッフ及び支援を受ける方々がウイルス感染から守られるように。

3. 政府のさまざまな対策、規制の中で、活動を続けるための知恵が本部のリーダー、各スタッフたちに与えられるように。

特定非営利活動法人
B.F.P.Japan（ブリッジス・フォー・ピース）
〒130-0012 東京都墨田区太平 4-13-2 太平サクラビル５F
TEL.03-5637-5333 FAX.03-5637-5331 URL: www.bfpj.org e-mail: bfp@bfpj.org